

オーム サイ ラム

4月24日のマハーサマーディに、約2年ぶりにインドへ行ってきました。私が到着したのは24日の朝だったのですが、マハーサマーディの行事は前々日の22日から3日間続いて行われており、その日が最終日でした。サイクルワントホールは二階のバルコニーからせり出すように美しい花々が飾りつけられ、天井からもきれいなイルミネーションが輝いて、音楽の奉納や連日のレクチャーも行われていたようでした。

この時期のインドは真夏なので、日中は40度近い暑さになります。それでも多くの信者の人たちがスワミのサマーディ（墓所）を訪れていました。この日は大きなテントの下で、インド料理の昼食が全員にプラサードとして配布されました。どこを見ても、かつてのプラシャーンティ ニラヤムと何も変わらない光景なのですが、一つだけ違っていたのは肉体のスワミのダルシャンがなかったことです。それ以外は何も変わらないのですが、ダルシャンがないというのは本当に寂しいものです。日本にいれば忘れているのに、あの場所へ行くと嫌でもスワミの肉体がないという現実が迫ってきて、なぜわざわざ悲しい思いをするために来てしまったのだろう・・・と思いました。でも、たとえ肉体は見えなくても、スワミご自身はそこにいらっしゃることを徐々に実感することになりました。

私は今回、身の回りで心配事が色々と起こっていたので、その心配事をすべて手紙に書いてサマーディ ダルシャン〔朝夕二回、スワミの墓所に一人ずつお参りできる〕の時に持って行きました。24日の午後、サマーディにお参りした後、手紙を入れるバスケットにその手紙を入れようとしてしまいました。すると、セヴァダル的女性に止められました。封筒は駄目、手紙はペーパー（紙）だけ、と言っていきなりビリビリと封筒を破るのです。えーっやめて！ と封筒を奪い返して、「何するのよ！」と言うと、封をしてあるものは中身がわからないからNGで、ペーパーだけならOK、なのだそうです。そして私にペンと一枚の紙をくれて、「これに書いて」と言うのです。しばらくそのペンと紙を持って考えていたのですが、「今日はもういい」とペンと紙を彼女に返しました。封を破られるというのは、「その手紙は必要ない」とスワミに言われているような気がしたからです。

気分を害して、部屋へ帰る途中、お祭り用のテントの下で本やCDを販売していました。そこに立ち寄って本をパラパラと見ていると、急に本屋のセヴァダルの人が、

「これを読みなさい、これを読みなさい」と言って一冊の本を私に見せてきました。

「これは素晴らしい言葉だ！ 私はこの本に感動している。この言葉を書いて、さあ書いて」と、また私に紙とペンを渡してくるのです。

「え？ この言葉を書くのですか？ 日本語で？」

「そうそう、早く書いて」

なぜ私がこの人の好きな言葉を書かなくてはいけないのか？ わけがわからないまま、

その本の見開きのページの言葉を日本語にして書いて、紙をセヴァダルに返しました。だれか知り合いの日本人にあげるのかなと思ったのです。すると、

「いや、これはあなたが持ってなさい。この言葉は素晴らしい。あなたが自分で持っていなさい」と、私にその紙を渡してきます。変なセヴァダル・・・と思いながら、もう一度その言葉を改めて読んでみると、こう書いてありました。

「自分にコントロールできる状況にあるものを、なぜ心配するのですか？

自分にコントロールできない状況にあるものを、なぜ心配するのですか？」

つまり、何も心配いらない、何も心配してはいけない、ということです。

ああ、これはスワミの答えなのだ！ と気がつきました。

以前から、アシュラムでは祈りや疑問の答えがすぐに返ってきたものですが、今でもそれは同じでした。さっきのダルシャンホール、この本屋のセヴァダルも、スワミの道具だったのでしょうか。こうして肉体を脱ぎ捨てられても、スワミは様々な人を道具に使って、今も以前と同じように私たちを導いてくださっているのです。自分でコントロールできることも、できないことも、何も心配する必要はない。すべては神の手の中にある。起きるべきことは起きる。でも、あなたがそれに影響されることはない。心配してはいけない・・・Don't worry Be happy....心配せず、幸せでいなさい。そのスワミのメッセージが理解できた途端、心配事はすべて、私の心の中から消えてしまいました。問題そのものが解決したわけではありませんが、問題が気にならなくなったのです。こうして、到着した日の夕方にはすべての心配事が取り去られてしまいました。そして・・・翌日から浄化が始まったのか、夏風邪をひいて寝込んでしまいました。

もう一つ、スワミは確かにいらっしゃると感じたことがあります。それは、眼鏡がなくなったことです。私はこれまでプラシャーンティ ニラヤムで何度も眼鏡をなくしたり壊したりしていたのですが、それは目に見えるもの、特に「肉体のスワミに執着するな」という忠告のように感じていました。私はスワミの美しい御姿をじっくり見たいので、ダルシャンの時は眼鏡を掛けて食い入るように見つめていたのです。それなのに、何度でも眼鏡がなくなります。そこで、ある時から自衛手段として、予備の眼鏡や使い捨てコンタクトレンズを持参していました。でも今回、もう肉体のスワミがいらっしゃらないので、眼鏡のことは忘れていました。しかし、スワミは忘れていらっしゃりませんでした。眼鏡はまたしてもなくなったのです！ つまりこれは・・・私のヴィジョンが何も変わっていない、まだ何も学んでいない、ということではないかと思いました。では、自分のものの見方、ヴィジョンをどのように変えれば良いのでしょうか？ 答がはっきりしないまま日本に帰ってきてしまいました。その答は、数日後にSSOJの今日の御言葉メールから来ました。5月4日、念を押すかのように2回も送られてきたその御言葉には、こうありました。

「もし、あなたが唯一性を体験したいと望むなら、エーカートマバーヴァ（霊的にはすべて一つであるという見方）の眼鏡をかけて宇宙を見なければなりません。そうしないなら、世界は当惑するほどの多様性として現れるでしょう。なぜなら、あなたは サットワ（浄性）、ラジャス（激性）、タマス（鈍性）という三つのグナ（属性）の眼鏡で見ているからです。その三つの眼鏡をはずしなさい。エーカートマバーヴァ、すなわち霊性における一体性という感情の眼鏡をかけなさい。愛は一つです。「至高なるものは一つ、賢者はそれを多くの名で呼ぶ」のです。

ジェイ サイ ラム！